



【公式HP最新記事公開！】

あたらしい三川内焼をつくる、つなぐ、つたえる。新世代の思い。

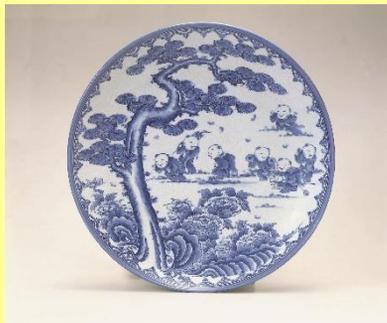
公益財団法人佐世保観光コンベンション協会では、公式HP「海風の国」させぼ・おちかの観光情報サイトに新規特集記事を公開しました。400年以上続く三川内焼。その伝統を受け継ぎながら「これから」を見据えて活動する、あたらしい三川内焼の担い手たちがいます。いまの感性であらたな魅力を生み出す、若手のつくり手3名に三川内焼への思いを伺いました。つきましては、ぜひ本件の取材・掲載にご協力くださいますようお願い申し上げます。

記事はURLまたは右の二次元コードからご覧ください。

<https://www.sasebo99.com/feature/mikawachi2023>



～三川内（みかわち）焼とは～



約400年以上もの歴史を誇る、国の伝統工芸で佐世保の特産でもある「三川内(みかわち)焼」。豊かな自然と、伝統の技巧、繊細な感性によって培われた「三川内焼」は、白磁に藍色で唐子を描いた「唐子絵」をはじめ、光に透けるほど薄い「卵殻手(らんかくで)」、華やかな模様をほどこした「菊花細工」「透し彫り」など、御用窯の名にふさわしい豪華なやきものが作られ、国内外で人気を博しています。現在は14の窯元が、伝統を大切に守りながらも、今の暮らしになじむやきものづくりを続けています。

～あたらしい三川内焼をつくる、つなぐ、つたえる。新世代の思い。～

いまの感性であらたな魅力を生み出す、若手のつくり手3名に三川内焼への思いを伺いました。



①人と人をつなぐ人 / 嘉泉窯 金氏健多さん

人懐っこい笑顔とユーモアで、常に周囲を和ませるムードメーカーの金氏健多さん。ふるさと三川内という産地をもっと多くの人に知ってほしいと、絵付け体験受け入れに取り組む金氏さんは、三川内焼のベテラン世代と若手世代をつなぐキーマンでもあります。



②動画で伝える、器の背景 / 平戸松山窯 中里彰志さん

平戸松山窯に長男として生まれ、自然と焼き物の道に進んだという中里彰志さん。制作に取り組む傍ら、地元の友人たちとYouTubeチャンネルを運営。三川内焼の歴史や器づくりの背景などをわかりやすく発信し、三川内焼の新たなファンを生み出しています。



③新しい風をつくる移住者 / 作家 林民和さん

作家の林民和さんは、三川内焼の作り手として初の移住者。3年前に移住してからというもの、同じ三川内の若手とともに、新しく心地のよい風を吹かせています。林さんのかわいがる猫たちが自由に出入りする、静かな工房でお話を伺いました。

■この件に関するお問い合わせ

公益財団法人佐世保観光コンベンション協会 担当:事業部企画課 岡

〒857-0863佐世保市三浦町21-1 (JR佐世保駅構内)

TEL0956-23-3369 (平日9:00~18:00) E-MAIL: sasebo.pr@sasebo-sight.com